

# Book Review



## 患者さんの治す力を引き出す 歯周基本治療 トータルから口をみる

谷口威夫 著



Reviewer

下野正基 Masaki Shimono  
(東京歯科大学名誉教授)

A4 判変, 160 頁  
カラー  
定価 11,000 円  
(本体 10,000 円+税 10%)  
医歯薬出版刊



谷口威夫先生著『患者さんの治す力を引き出す歯周基本治療 トータルから口をみる』が上梓された。本書は10章から構成されているが、第1～3章が歯周基本治療の総論で、第4～10章が各論ということもできる。

総論を読んで驚くのが、各章のタイトルとサブタイトルである。「ジバン・カンバン・カバン。そのうえ“ウデ”もなく」「患者さんと歴史的な大事件」「欧米の科学に疑問」「信頼を獲得するために欠かせない8つのステップ」「なぜ?」「もしかして?」などという秀逸なキャッチコピーがあり、目次をみるだけで、「どんなことが書かれているのか?」とわくわくする。読者の期待を膨らませる仕掛けを随所につくっているのは流石である。

各論では歯周基本治療のアドバンス編として、根分岐部病変、ブラキシズム、臼歯部咬合崩壊、小児歯科、最終章に自己評価を記述している。いずれも症例を通して難しい課題に挑戦した

成果は、同僚・後輩のための貴重な指針となるに違いない。

かつては、歯周ポケットが6mmを越えたら歯周外科という時代もあったが、歯周基本治療の精度を上げていけば、外科を行わなくても歯周炎が治癒することが多くの症例によって証明されてきた。今日、歯周基本治療の重要性を無視する意見はないだろう。

このことを決定的なものとしたのは、2017年に開催されたアメリカ歯周病学会とヨーロッパ歯周病連盟共催の国際ワークショップである「歯周病およびインプラント周囲組織の疾患と状態に関する新分類」である。この分類では、ステージ分類およびグレード分類の導入が大きな話題となった。しかしそれ以上に私が驚いたのは、「臨床的に健康な歯周組織」を新たに定義したことである。世界保健機関(WHO)の定義に従って、より臨床的・実用的・包括的な視点から「健康な歯周組織」が定義されたことは画期的な

出来事である。「①臨床的に健康な歯周組織」という新概念、②歯肉炎は可逆的病変、③診断の要点はプロービング時の出血(BOP)、④SPT(歯周病安定期治療)の時代——などから、「歯周基本治療」が今後ますます重要な歯周治療となることは明らかである。今般、本書『患者さんの治す力を引き出す歯周基本治療 トータルから口をみる』が出版されたことは、時宜を得た誠に意義深いことである。

『患者さんの治す力を引き出す歯周基本治療 トータルから口をみる』は、著者が患者さんの話(病)に耳を傾けて、その人生や価値観などを含めて全人的に医療を行ってきた結果が記述されている。いわゆる narrative based medicine (NBM) である。科学的根拠に基づいた医療 evidence based medicine (EBM) とは異なるアプローチによる、患者さんが「語る」病に基づく歯科医療に興味をおもちの方は本書をぜひ手にとっていただきたいと思います。